Osaka Shoin Women's University Repository

学　報

（昭和四十年九月より昭和四十一年八月まで）

女性の生き方　在学生

○十月二十九日　秋の文学散歩。二回生が原田・竹内両教授・野村助手と共に嵯峨野方面へ行った。

十一月二十七日・二十八日、三回生約三十名が伊賀・伊勢方面へ一泊旅行をした。安田・原田両教授・野村助手参加。

一日目　芭蕉記念館、芭蕉生家と釣月軒、故郷塚。（波切泊）

二日目　大王崎燈台、御座、浜島、伊勢内宮、松坂鈴の屋。

○十一月二十日　才五回国文学会総会。

講演・ドイツにおける東洋文化研究　北川二郎氏

・アメリカあれこれ　井植豊氏

シンポジウム

○十一月五日・六日・七日　文化祭。

○一月二十七日　卒業論文発表会。例年どおり、四回生は卒業論文についてテーマの選択理由内容概略、感想等を発表。

○二月五日　予餞会。

○桂・修学院離宮拝観。一月末から二月にかけて各グループにわかれて拝観。

○三月十六日　昭和四十年度卒業式。岩鼻絹子ほか五十七名が卒業、翌十七日、新阪急ホテルで謝恩会が催された。

○五月十日　歓迎会。新二回生八十二名の歓迎会を才四教室で行なった。

○春の文学散歩。五月十五日、二回生が葵祭を見学。原田・竹内両教授参加。

五月十一日、三回生が安田教授と共に三輪・山の辺の道を散策。

○教育実習。六月十日より二十三日までの二週間、四回生五十四名のうち教職課程を修める四十八名が、樟蔭高校及び中学にわかれて実習。

○六月二十三日　才八回国文学会評議員会。秋の総会、会報発行、その他の事について協議。

伊賀・伊勢文学散歩

十一月二十七日、安田、原田両先生を交えた一行三十余人は芭蕉で有名な伊賀上野へ向つた。上野市駅に降り立つた我々を迎えてくれたのは、蕉翁の像であつた。伊賀盆地の中心にある上野は、俳聖の生誕地にふさわしい静かなたたずまいを見せていた。三百五十余年前藤堂高虎が築城した白鳳城は、

Osaka Shoin Women's University Repository

市の高台に位置し、日本一高いと言われる石垣と老松大樹に囲まれ遠い歴史を物語つている。目指す芭蕉記念館は、城内の一角にモダンな構えで我々を待つていた。そこで館長さんに、翁の真筆や文献などの説明を聞いた。午後、私たちは忍者屋敷で好奇心を満足させた後、蕉翁の生家を訪れた。生家裏の釣月軒は書斎にあたる所で、翁は帰郷の度に愛用したという事だつた。こんな質素で閑静な環境から数々の名句が詠み出されたのだと、感慨を深くした。芭蕉五庵の一つ蓑虫庵は時間の都合で断念し、翁の遺髪を祀つた故郷塚のある愛染院を訪ねた。ここでもゆかりの品々が収集され、芭蕉の足跡未だ消えずの感がした。

上野より伊賀神戸を経て伊勢市に着いたのは四時前であつたが、小憩の後大王崎近くの波切の町へと急いだ。若さを誇る我々もさしもの強行軍に疲れ果てゞこつくり道中々と相なつた。波切に一泊。

翌朝、白亜の大王崎灯台を訪ねた。断崖には、黒潮の波しぶきが砕け散り壮観であつた。船越から船に乗り、万葉の歌枕英虞湾周遊を楽しんだ。ここは一名を真珠湾と言い、波静かな入海には沢山の島が碁石を散りばめたように浮かび、その間を縫つて無数の真珠筏が志摩の財源としての威容を誇つていた。一行はバスで伊勢市に戻り伊勢神宮（内宮）に詣でた。内宮を流れる五十鈴川の聖水に手を浸すと、お伊勢さまの霊気にふれたように清々しさで一杯になつた。昼過ぎ神都に別れを告げ、本居宣長と松坂牛のまち松坂に赴いた。鈴の屋は町並みを少しはずれた松坂城址に、保存会の手で残され、数多くの遺品・遺書・文献が、偉大な国学者本居宣長のありし日の姿を彷彿とさせていた。街中の宣長宅跡を最後に、史跡と自然美を求めての二日間の楽しかつた文学散歩を終えた。

（国三　武内寿美子記）

昭和四十一年度講義題目

国文学概論	安田　章生
国文学史概説	原田　芳起
国文学研究	
和歌史論	安田　章生
物語文学論	原田　芳起
西　鶴	木村三四吾
近代短歌	安田　章生
古典と近代作家	長野　嘗一
国文学講読	
万葉集	安田喜一郎
枕草子	細川　馨
紫式部日記	竹内美千代
大　鏡	原田　芳起
新古今集	西畑　実
謡　曲	久保　重
俳　諧	木村三四吾
浄瑠璃	横山　正
たけくらべ・にごりえ	山根　賢吉
国文学演習	
古今集	安田　章生
蜻蛉日記	原田　芳起

Osaka Shoin Women's University Repository

源氏物語・帚木　竹内美千代
源氏物語・蛍　久保　重
山家集　安田　章生
国語学概論　原田　芳起
国語学史概説　鈴木　一男
国語法概論　竹内美千代
国語表現論　竹内美千代
話しことば　徳田ミチ子
国語科教科教育法　鈴木　一男

昭和四十年度卒業論文題目

芥川龍之介　新井　陽子
近松芸術観の考察　池田　律子
石川啄木　石田　淳子
西鶴晩年期の作家形成
—「西鶴織留」を中心に—　岩崎　和江
三好達治論　岩田千鶴子
「明星」に於ける短歌の研究　岩鼻　絹子
現代敬語の一考察
—女性語を中心として—　上田仁紀子
堀辰雄研究
—主として王朝作品について—　岡田　類子
「青銅の基督」論　角谷志保子
平安時代の女流日記文学についての一考察　片岡　典子
鷗外の「舞姫」「うたかたの記」「文づかひ」について　片桐　千恵
蜻蛉日記　金子　トヨ
平安初期物語文学考　川原　迪代
有島武郎研究　木下　健子
『花伝書』花の理論　木曽美重子
近松心中物考　木村喜代子
近松門左衛門
—心中物における女性について—　北川登来子
堀辰雄　北山　晃子
世阿弥の能楽論に於ける「物真似」について　倉橋　秀子
梶井基次郎研究　栗林　隆子
森鷗外　小林美耶子
三木露風研究　小松　邦子
山本有三の研究　佐々木由美
秋成と雨月物語　佐崎　悦子
島崎藤村論　佐野　節子
島崎藤村研究　清水　博子
在原業平論　清水美智恵
和泉式部　清水誉謝美
狂言研究　菅原スミエ
井伏鱒二　杉藤　早苗
「和泉式部日記」
—帥の宮との恋愛を中心に—　仙波　要子
泉鏡花の研究　園田　順子
島崎藤村について
—自然主義小説の登場まで—　田辺　博子
清少納言　高田　利子
更級日記　高橋　幸子
芥川龍之介論　高見　律子
井原西鶴「好色五人女」の研究　谷山　美之
源実朝論　中岡真由美
元禄時代の文学　中本　良子
太宰治論　西村　尚子
源氏物語小考　西山　昭子

Osaka Shoin Women's University Repository

太宰治論　野瀬　恵子
世話物の研究　範浄　恵子
斎藤茂吉研究　林　純子
中原中也の研究　松岡　邦子
慈鎮和尚の研究　松田　宏子
世話浄瑠璃に見える悪人の性格　松村　悦子

受贈図書

〈昭和四十年十月～同四十一年九月〉

阿讃諸文庫国文学飜刻双書　第一集、第二集、第三集、第四集、第五集
　阿南工業高等専門学校国語研究室
跡見学園国語科紀要　一四
　跡見学園国語科研究会
大阪電気通信学園研究紀要　第二号
　大阪電気通信高等学校
香椎潟　第一一号
　福岡女子大学国文学会
学苑　四〇年一〇月、一一月、一二月、四一年一月、二月、三月、四月、五月、六月、八月
　昭和女子大学内光葉会
学大国文　第九号
　大阪学芸大学国語国文学研究室
金城学院大学論集　第九号
　金城学院大学国文研究室
金城国文　第一二巻第一号、第一三巻第一号
　金城学院大学国文学会
金城文学　三四号　三五号
　金城学院大学国文学会
高知女子大国文　第二号
　高知女子大学国語国文学会
高知大学学術研究報告　第八号、第九号
　高知大学
甲南国文　第一三号
　甲南女子大学国文学会
神戸山手女子短期大学紀要　第八号
　神戸山手女子短期大学図書館
国学院雑誌　四〇年一一月、一二月、四一年一月、二月、三月、四月、五月、六月、七月
　国学院大学
国語学研究　五
　東北大学文学部第十合同研究室
国語国文学　一七、一八
　名古屋大学国語国文学会
国語国文学会誌　第九号
　学習院大学国語国文学会
国語国文学報　第一九集
　愛知学芸大学国語国文学会
国語国文研究　第三二号、第三三号
　北海道大学国文学会
国語国文論集
　静岡女子短期大学国文科
国語と教育　一九六五
　大阪学芸大学国語国文学研究室

高橋蟲麿研究　丸本智恵子
芥川龍之介　見寺　範子
良寛和尚の研究　水田　絹栄
吉利支丹文学の研究　宮川　淳子
夏目漱石の文学　森　真由美
室生犀星論―小説を中心として―　森田日佐子
竹取物語の性格　矢野　淑子
古事記の研究―海幸山幸の神話について―　山田美和子
中原中也研究　横川　昌枝
橘曙覧　吉川　俊子

Osaka Shoin Women's University Repository

国文　第二四号、第二五号
お茶の水女子大学国語国文学会
国文学　第七号
愛知大学国文学研究会
国文学　第三九号
関西大学国文学会
国文学漢文学論叢　第一一輯
東京教育大学文学部
国文学研究　第一号
梅光女学院短期大学国文学会
国文学研究　第三二集　第三三集
早稲田大学国文学会
国文学攷　第三八号、第三九号、第四〇号
広島大学国語国文学会
国文学論考　第二号
都留文科大学国語国文学会
国文鶴見　第一号
鶴見女子大学日本文学会
語文　第二二輯、第二三輯、第二四輯、第二六輯
日本大学国文学会
語文研究　第二一号
九州大学国語国文学会
駒沢国文　第四号
駒沢大学国文学会
試論　第一二号
武蔵野・甲南文学会
実践文学　第二六号、第二七号、第二八号
実践文学会
女子大国文　第三九号、第四〇号、第四一号
京都女子大学国文学会
人文学　第八六号
同志社大学人文学会
人文研究　第二号
大阪市立大学文学会
成蹊大学文学部紀要　第一号
成蹊大学文学部
成城文芸　第四〇号、第四一号、第四二号、第四三号
成城大学文芸学部研究室
玉裳　創刊号
フェリス女学院大学国文学会
同志社国文学　創刊号
同志社大学国文学会
都大論究　第五号
都立大学国語国文学会
日本歌謡研究　第三号
日本歌謡学会
日本文学研究　第五号
大東文化大学日本文学会
日本文学誌要　第一三号、第一五号
法政大学国文学会
日本文芸学　創刊号
関西大学日本文芸学会
日本文芸研究　第一七巻第一号、第二号、第三号
関西学院大学日本文学会
文科学年報　第一五輯
同志社大学文化学会
文科論集　第一集
福岡工業大学
文学会論集　二八
甲南大学文学会
文学論藻　第三一号、第三二号、第三三号
東洋大学国語国文学会
文芸研究　第一四号、第一五号
明治大学文芸研究会
文芸と思想　第二八号
福岡女子大学国文学国文学会
平安朝文学研究　第二巻第二号
早稲田大学国文学会平安朝文学研究会
法文論叢　第一九号
熊本大学法文学会
山辺道　第一二号
天理大学国文学研究室
和洋国文研究　第三号
和洋女子大学国文学会

Osaka Shoin Women's University Repository

樟蔭国文学　第四号

昭和四十一年十一月十五日印刷
昭和四十一年十一月二十日発行

大阪樟蔭女子大学
編集者　国　文　学　会
（代表者　安田章生）

大阪市東区元伊勢町五三六
印刷所　共進社印刷株式会社

布施市菱屋西二五八
発行所　大阪樟蔭女子大学
国　文　学　会